藤女子大学
藤女子短期大学　　No. 47

図書館だより

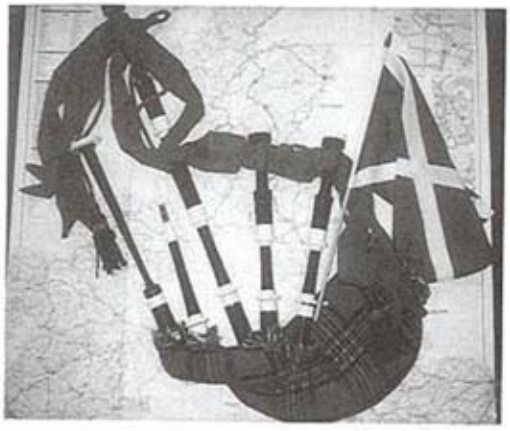
'95. 7

『夢みて迷える国』を思う

教育心理学
中野　茂

エディンバラへ

一年前の4月5日，私はKLMオランダ航空，アムステルダム行きに乗っていた．一年間の海外研修の機会を得て，英国のスコットランドにあるエディンバラ市に向かう途中だった．海外へ出かけたのはこれが初めてではないが，一年となると全く先が見えないという不安が先を走っていた．その一方で，これまでは名前しか知らなかった研究者と会って話せることで，多くの得られるものがあるのではないかという淡い期待もあった．そんな入り乱れた気持ちの中で，



ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞの国旗とﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ

目　　次

『夢みて迷える国』を思う
中野　茂 ……1
新しい雑誌 ……4
夏の達人 …… 5
おしらせ・夏休みの図書館 ……12

ぼんやりと英会話のテキストとこれからお世話になるトレヴァーセン教授の論文をめくりつつ，半日余りの冗長な時間を窮屈に費やしていた．

この日は成田を午前中に発たなくてはならなかったので，前日に千歳を発ち，八重洲のブックセンターで一年の研修中に読みたい本を数十冊買い，その夜は成田に住む兄の家に泊まった．翌朝，空港へ行き，予め宅配便で送っておいたスーツケースを受け取り，それらの本を無理やり押し込んだ．ところが，チェックイン・カウンターに行き，秤に荷物を載せた途端，女性係員に「10キロ超過です．」と告げられた．そして，彼女は，複雑な顔で「超過料金10万円のところ…」と言った．私は「エェッ，10万円！」と目を丸くしてうろたえてしまった．これからの異境の地での生活費にどれほどかかるかの見当もつかなかったので，経済的に不安だった．私の青ざめた顔を彼女が見たかどうかは覚えていないが，「お負けして３万円いただきます．」とつないだ．私はほっとした一方で，『高い本代になったなぁ』と内心で後悔もした．

この幸先の悪さにもかかわらず，その後のエディンバラ迄の旅は順調だった．ＫＬＭの機内では，現在どこの上空を飛んでいて，あと何時間の“辛抱”かを絶えずコンピュータ画面で表示していた．面白いことに，ちょっと本を読んでから見たときには，残りの時間は少しも減っていないのに，ぼんやりしてふっと我に返ったときには嬉しくなる程ずいぶん減っていることがあった．こんな“心理学実験”をしながらロシアの上空を越え，スカンジナビア半島を横切ってオランダに着いた．

アムステルダム・スキポール空港はヨーロッパにおける国際線のハブ（軸）だけに広大で，「動く歩道」を移りつないで歩けども歩けどもなかなか目的の搭乗口に着かないほどだった．それでも各航空会社，行き先によって色によってゾーンが表されているので成田の第一，第二ターミナルの分類よりははるかに分かりやすかった．ここでエアーＵＫという日本でいえば近距離航空のような会社の小さな飛行機に乗り換え，約１時間半（時差のため時計の上では２時間半）でエディンバラに夜の８時過ぎに着いた．

エディンバラ空港は国際線の搭乗口が一つしかなく，いかにもローカル空港といった感じののんびりした空港である．入国審査も研究にきたことを告げて，トレヴァーセン教授からの招聘状を見せただけですぐに終わり，しかも滞在期間を一か月お負けしてくれた．私がロンドンへ飛ばずに，アムステルダム経由できたことの理由の一つは，ここにある．ロンドンのヒースロー空港は４つのターミナルに分かれて複雑な

上に，国内線へ乗継ぐにはターミナルからターミナルへと荷物を押して延々と歩かなくてはならない．しかも，入国審査は，いつも長蛇の列の中で待たされるばかりでなく，かつて追い返されそうになった人もいるほど厳しい．それに比べてエディンバラ空港の平穏さ，スムーズさは実に快適といえる．荷物検査も全くなかった．その後オランダまで２度往復したが，いずれもパスポートを見せただけでよかった．エディンバラの友人たちからはランダムに検査があるらしいとは聞いたが．

エディンバラに暮らす

空港から出てみて８時半なのにまだ新聞が読めるほど明るいのに驚いた．タクシーを拾い予約してあったＢ＆Ｂ（ベッド・アンド・ブレックファースト：民宿）へと向かった．私が気がかりだったのはもちろん英語でのやりとり，しかもここはスコチッシュ訛．しかし，このタクシーの運転手は親切にも「あんたの英語うまいよ．スコチッシュ訛，じきに慣れるさ．」と励ましてくれた．しかも，「日本のどこ，札幌…ああ，ずっと前にオリンピックのあったところだね．」と言ってくれたのには感激した．この時，やっぱりオリンピック都市札幌はエディンバラでも知られているのかと思ったが，１年の間にイギリスで出会った札幌を知っている人は彼を含めてたった６人だけだった．札幌オリンピックを知っていた人がもう１人だけ，日本に来たことのある人が２人，そしてサッポロ・ドライ・ビールを知っていた人である．残りの１人はやはりタクシーの運転手だったが，面白いことに，コンピュータ制御のナビゲーション（道案内）システムで有名な会社が札幌にあることを“教えて”くれた．

The Sundaytimes の表紙

翌日，トレヴァーセン教授がＢ＆Ｂまで迎えにきてくれて，彼が捜しておいてくれた「フラット」（日本のアパート）へ連れていってくれた．必要な家具・食器類はすべて揃ってもうその日からなに不自由なしに暮らせる状態になっていた．寝室が３つと広いダイニングキッチン，居間があり，７月末からは家族が来て５人で暮らしたが快適な広さだった．トレヴァーセン教授の親切心にはいつも頭が下がる思いでいる．エディンバラ大学に来ていた他の人たちは家捜しも自分でしなければならなかったというし，研究室も当たらない人もいるということだった．しかし，彼は，私だけでなく私の家族にも，クリスマスには招待してプレゼントを用意して下さったり，何かとこと細やかにご夫婦で心配りをして下さった．

さて，エディンバラ市は人口50万人で札幌の北区くらいの広さである．かつてスコットランド王国の首都だっただけに，お城を中心にいかにも歴史を感じさせる５階建てのすすけた石造りの建築群が壁のように道に沿ってどこまでも並んでいる．その多くは，１階（グランド・フロアー）が商店で，上がフラットになっている．一方で，緑豊かな街で，中心街であるプリンシィズ通りの片側はかつては貴族しか入れなかったという見事な公園であるし，大学も本学から札幌駅までほどもある広大な公園（メドウズ）の側にある．また，ネオンが全くなく，夜はお城などの歴史的建造物がライトアップされ，街はオレンジ色の街灯に飾られる．毎年，８月後半から９月初めにかけては「国際フェスティバル」が開催されるが，なんと合計一万件もの催しが市内のいたるところで開かれるのには驚かされる．物価は日本よりはるかに安く，20ポンド（約３千円）買うと一人では持ちきれないので，家内はいつも子ども達を従えて行かなければならなかったほどである．

《次号に続く》

新しい雑誌

本館・花川館に新しい雑誌が入りますので，どうぞご利用ください．

《 本館 》

季刊武蔵野美術	（武蔵野美術大学）
月刊しにか	（大修館書店）
SINRA	（新潮社）
ダ・ヴィンチ	（リクルート）
Fetes et Saisons	(Editions du Cerf)
JAPAN TIMES	(The Japan Times)
Peuples de Monde	(Solendi)

《 花川館 》

ＳＦマガジン	（早川書房）
新建築住宅特集	（新建築社）

夏の達人
～涼しむ・楽しむ～

昨夏は，“猛暑”“酷暑”といった文字が随分新聞を賑わせましたが，今年も夏がやって来ました．夏に涼を求める人あれば，北海道の短い夏だからこそ，暑さを思いきり楽しみたい人もいることでしょう．

先生方に「夏に読みたい本，お勧めの本・場所，夏に実践している事，予定など一言を…」とお願いしましたところ，多くの原稿が寄せられました．ご協力くださいました先生方には心よりお礼申し上げます．

学生の皆さんも，ここから夏の過ごし方のヒントをみつけてはいかがでしょうか．

国文学

青木　正次

夏休みは本を読まないし，なにも考えない．もっぱら山を歩き，岩を登って，身体に溶けこむことにつとめる．それもできるだけ，長い間山の中に入り，毎日々々歩きつづけたい．かんじんの足を痛めたので，今年は岩を登れないだろう．となれば，いつものパートナー（妻）と一昨年の南アルプス縦走のように，北アルプス全山を歩きたい．

調理学

阿部　典子

日中の暑さや騒音が静まり，夜風が心地よい頃，本を読むのは何と楽しいことか．この夏は，辻邦生著「西行花伝」をと思っています．美と権力の間に独自な生の境地を築いた西行法師の生涯を，著者が三十年をかけた作品であり，魅せられそうです．学生の皆様には大江健三郎・ゆかり著「恢復する家族」をお薦めします．ぜひお読み下さい．

英語

伊藤　明美

私は夏が好きだ．気温の上昇につれ，「来たな，来たな」という感じで嬉しくなってしまう．幸いなことに，日本の夏は苛酷ではない．海や川や山や空がとてもやさしい．自然の懐に飛びこんで存分に遊ぶもよし，暑さにかまけてウダウダするもよし．えっ仕事？　ダメダメ．夏はなるべく働かないで長めの休暇を取る．これが最大の夏の楽しみ方と言えましょう．（3才児を持つフルタイムワーカーの主婦にだって夢はあるのだ．）

＊　　の資料は，図書館にありますので，11頁のリストをご覧ください．

『涼夏を楽しみたい』

生活経営

内田　博

20年振りに北海道に帰ってきた．そのあいだ京都と名古屋で体温より暑い夏を過ごしてきた．とくに名古屋では，朝から日射しが痛いとか夜になっても20度を割らないとか，ひどい体験をした．それに比べると北海道の夏は10度は涼しいはずで，それだけでもう十分にうれしい．去年の札幌は例年の東京並みに暑かったようだが，それでも名古屋よりは楽だ．

住環境論

宇野　浩三

季節に応じて読書傾向を変えたり決めたりする風流な習慣はもっていません．この数年は日本社会を問い直すのに参考になりそうないろいろな分野のものを広く浅く読むという没専門的読書傾向が続いています．このあとは遠山啓の残り数冊と河合隼雄も読むかもしれません．そろそろまた俵万智さんの爽やかなエッセイの新刊も読みたいとも思う．

国語学

漆崎　正人

北海道といえど，夏はそれなりに暑い．夏に，読書のために，涼しく静かな空間を確保することはなかなか難しいのだけれども，私は，学生の頃，図書館の書庫を比較的良く利用していたように思う．恐らく書籍の管理維持上，温度や湿度が調整されていたのだろう．そんなこともあって，我が藤の図書館に，蔵書の整理等は必要最小限にして，夏休みの開館日をできるだけ多くして欲しいと願うのである．

音楽

大畑　耕一

～音楽関連の読物のご紹介～

「コンサートは始まる」　音楽之友社

ボストンシンフォニーの音楽監督小沢征爾との音楽上の対立に苦悩する主席トランペット奏者を中心に描く．

「雨の歌」　五嶋節著　ワニブックス

バーンスタインが異星から来た天才と称する，ヴァイオリニスト五嶋みどりの生い立ちから成功までの物語り．夏とは関係ありませんが面白い本なので．

国文学

小笠原　克

李恢成の長篇『流域へ』（1992　講談社）と『百年の旅人たち』上・下（1994　新潮社）をお勧めします．

前者は1937年，スターリンによって延辺からカザフへ強制移住させられた朝鮮人の運命を，後者は日本敗戦後に樺太（サハリン）から脱出した朝鮮人の姿を，史実を踏まえ体験をも注いで描いた力作です．

＊　　の資料は，図書館にありますので，11頁のリストをご覧ください．

保育学

沖津　圭子

ノーマライゼーションよく耳にする言葉です．だれによって言われたのか知りたいと思っていたところ「ノーマライゼーションの父」に出会い時代や国を越えて彼の生き方に感動と恐怖を覚えます．北欧からヴィーゲランの作品が来ました．親子のふれあいや無邪気な子どもの像から同じ土壌に培われた人間愛を感じ心を打たれてしまいました．

人間学

川中　なほ子

今年学会で英国へ行きますので，図書館や書店の英国関係のものが気になりました．ある種の懐かしさとか甘さが若い人々に受けていると聞きます．納税義務の年令まで英国籍の旅券を使っていた私には嬉しくもありますが，大学生なら森嶋通夫の「イギリスと日本」のような客観的な本や，「「英国」神話の解体」のような批判的な書物も読まれたら如何でしょうか．

体育

川端　ひろ子

粗塩で１週間漬けた梅に赤紫蘇の葉をもみいれて約５日．

晴天続きを直感するや，盆・笊・箕にそれらを分け入れ，朝から太陽を追いかけ回し乾いたところから裏返す３日間．

茂った木のある狭い庭には，１日中陽の当る場所がない．

汗だくになって１年分の梅干し10Kgをつくる儀式・太陽儀式を執り行なうのが私の夏である．

ドイツ語

N・クレメンス

ドイツ大使館から贈られた本がきっかけになって，冬以来，歴史小説を読んでいますが，おそらく夏にもこの種の本を楽しむでしょう．

今は『カタリナⅡ世』で夢中です．次に読みたいのが，同じ十八世紀のヨーロッパに強い影響を与えたオーストリアの『マリア・テレジア』・プロイセンの『フリードリッヒⅡ世』などの本です．

国文講読

小山　清文

今夏もやはり，源氏物語と付き合わざるを得ないようだ．講談社から出版予定の瀬戸内寂聴による“現代語訳版源氏物語”に少々かかわっているからである．二年前より携わり，連休中にようやく明石巻の校閲を済ませたところで，まだまだ先は遠く長い．特にこの手の作業は暑い夏には向かないだろうから，益々停滞するばかりかもしれない．

物理学

清水　弘

中島敦の「名人伝」．これほど短くて（文庫本で僅々九頁），これほど鋭く，面白い話はちょっと例がない．何遍読んでもニヤニヤして了う．夏休の午後，軽い運動の後シャワーで汗を流し，冷えたビールを一気に飲み干し，横たわって名人伝をひらく．この九頁を読み了えるのと，午睡に陥るのと，どちらが先だろう‥‥．

絵画製作

杉浦　篤子

盛夏の午後窓を大きく開け，風を部屋いっぱいに入れ，レースのカーテンが涼やかに揺れるような中で聴きたいレコードが一枚あります．10年ほど前までは夏の定番曲だったはずなのですが今はどうでしょうか．

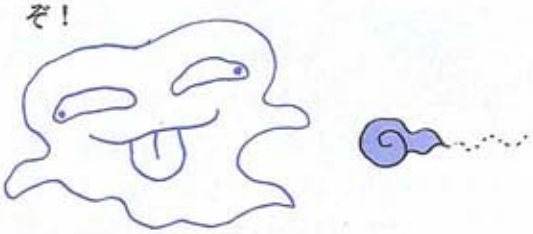
演奏しているグループは「クスコ」，曲名は「ヴァージンアイランド」．シンセサイザーのアコースティックな音と波のくだける音がひんやり感をもたらし，耳に心地好く響いてくれるのです．私にとってはそれが夏恒例の，暑さ解消法であり，今年の夏もこの曲が似合う暑い夏であって欲しいものです．

国語学

鈴木　智子

夏に涼しくなる本ですって？
あんまり知りませんねぇ．あの世でもかいまみて頂きましょうか．

『かいまみた死後の世界』著者はレイモンド・ムーディ．ヴァージニア大学大学院で哲学を専攻して哲学博士となり，三年間大学で教えた後，ヴァージニア医科大学に入学して医学博士になった人です．図書館一層の466Mの棚へどうぞ！



英文学

関　憲治

記憶のよさ，すなわち頭の良さと考えがちな今の教育制度の中で私は常にコンプレックスに悩まされている．しかし，こと読書には物覚えの悪さはむしろメリットではないかと思っている．何度読んでも印象が新鮮だし，未知の世界に分け入る興奮も，新たな知己を得た感激もあるからだ．「推理小説を再読するほどつまらないことはない」と記憶のよさを誇る人が哀れに思えてくるくらいだ．きっと今夏も新鮮な気持ちで読書を楽しむことだろう．

＊　　の資料は，図書館にありますので，11頁のリストをご覧ください．

『ここではない，どこかへ』

—夏休みの楽しさ—

国文学

種田　和加子

「夏休み」というのはいつも魅惑的である．はてしなく時間があって何ものにも拘束されない．子供のころの遊びの時間がもどってくるかのようだ．読書にも季節感のようなものはあって，夏に暑苦しい本は読みたくない．私は毎年ホメロスの叙事詩にはじまり，ニーチェの「悲劇の誕生」へうつり，しっかり気分をもりあげて自分のテーマに目覚める． これは「夏休み」にはいるという私なりのイニシエーション（!）である．なるべく「今，ここ」より遠くをイメージしてから辛気臭い仕事にとりかかるのだ．どうも子供のころからその習性はかわらぬようだ．仕事とは別に，今年はカフカをしっかり読みかえそうと思っている．プラハにもいってみたい．

学長

土田　將雄

日頃図書館を利用させて頂きありがとうございます．目下北海道文学全集を巻をおって読んでおります．ただし時間がないので読み終わる前に任期切れになるのではないかと思います．

英語学

新岡　利朗

料理をするか，食に関する本が一番．乱暴な日本語のものや店の提灯持ちのようなものはダメ．荻昌弘『男のだいどこ』，檀一雄『檀流クッキング』『美味放浪記』．小島政二郎『食いしん坊』，邱永漢『食は広州に在り』『象牙の箸』，吉田健一『私の食物誌』『舌鼓ところどころ』，獅子文六『食味歳時記』『飲み・食い・書く』，丸谷才一『食通知ったかぶり』．開高健『新しい天体』．

生物学

林　新治

夏は，やはり真赤な太陽と焼けつくような厳しい暑さが快い．さ程暑さに強い体質というのではないが，真夏日が極めて乏しい北国育ちのせいか，または「冷夏」という語感に名状しがたい寂寥を覚えるお年頃（？）のせいか，近頃は昨夏のような記録的な酷暑も—また楽し—の心境にある．

ところで私のお勧めのスポットは“鱒見の滝”．是非一度．

英文学

平松　哲司

夏になると食べたくなるものがある．アイス・キャンディーである．昔子供の頃近くに製氷所があって，いくばくかのお金を手に買いに行くと中は薄暗く，冷気が半ズボンの足から昇ってくる感じがした．氷を四角く切りとっている職人のおじさんが手をとめて奥からもって来てくれるアイス・キャンディーは本当にうまかった．外に出ると，冷えきった体に強烈な日射しが快かったことを覚えている．

被服学

古瀬　絢子

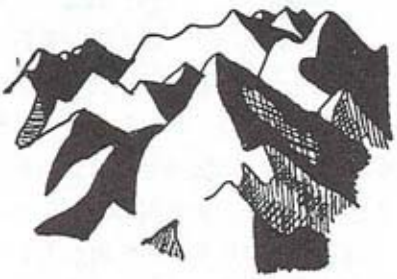
茶の湯に名水点という点前があります．名水でお茶を点て，ときにはお茶と共に水そのものを客に供する点前です．一に山水，二に江水，三に井戸水とされる点前の水を求めてあちこちの名水を訪ね，水のありがたさを味わうことも，夏の暑さの中での茶道の楽しみのひとつなのです．おすすめの本は“生活ごよみ”千宗室・千登三子監修　講談社．

栄養学

松坂　裕子

じっくり再読したい本は，遠藤周作の「深い河」「死海のほとり」です．お勧めは「ワイルド・スワン」で，両者とも図書館にあります．

夏に恒例になっているのは山歩きです．特に好きな山は塩谷丸山（標高629m）．あまり体力のない私でも２時間ほどで登れます．頂上からは，忍路・蘭島の海岸と積丹の山々が一望でき，景色は最高です．



＊　　の資料は，図書館にありますので，11頁のリストをご覧ください．

国文学

丸山　隆司

「夏を楽しむ」？．このテーマにふさわしい本といえば，これだろうか．「夏の愉しみ」（アルフォンス・アレー『悪戯の愉しみ』福武文庫）．中身は読んでのお愉しみ．作家をいささか紹介しておく．1854年，フランス・ノルマンディの港町オンフルールに生まれる（作曲家エリック・サティも，ここに生まれる）．家業は薬屋．中等教育を終え，パリに出，薬屋の見習いをし，薬学の専門学校へ．しかし，卒業はせず，コント作家となる．モンマルトルの酒場「黒猫（シャ・ノワール）」（サティはアレーの斡旋で一時ここでピアノ弾きをしていた）を拠点に，生涯，千数百編のコントを書く．シュール・リアリズムの旗手のアンドレ・ブルトンをして，「エスプリのテロリスム」を言わしめた．ちなみに，フランス語原文はリーブル・ポーシェに二冊ある．

ブラック・ユーモアなるものがいかなるものか，一読，アレー．

育児学

三浦　良一

この数年，美術からみた子育てと信仰というテーマで，あちこちの史蹟や美術館をみて歩いており，昨年の夏はドイツを旅したのですが，今年は，今まで行かれなかったマリアさんのゆかりの国を訪ねたいと思っています．あとの夏には，この２，３年成績が落ちてきたゴルフの腕を戻すべく，今からトレーニングに励んでいるところです．

教育原理・生徒指導

山本　哲雄

夏は優雅に“涼しむもの”に反し，いつの間にか全く正反対の方向に気が働き，それに意気を感じるようになって久しい．

限られた夏の暑さを求め，炎天に皮膚をこがし，汗をしぼり尽くす苛酷な程のテニスサーキット．

今年もまた，若い仲間からよい場所探しのニュースが届きそうで落ちつかない．

英文学

吉川　弘一

夏休みには分厚い本を読むようにしています．英文学は，ディケンズやジョージ・エリオットを始めとして，分厚い本に事欠きません．専門の18世紀には，その倍以上も厚い小説がごろごろしています．そういう訳で，ごろごろしながら暑い夏の夜に厚い英小説を熱くなって（？）読む，というのが僕の典型的な夏休みの過ごし方です．

（掲載は五十音順にさせていただきました．）

《資料リスト》

新しい天体　「開高健全集」　6巻　新潮社　1992	[918.6-Ka21s-6]
「イギリスと日本」　森嶋通夫著　岩波新書　1977	[361-Mo64]
「恢復する家族」　大江健三郎文・大江ゆかり画　講談社　1995	[914.6-069]
「かいまみた死後の世界」　ﾚｲﾓﾝﾄﾞ・A.ﾑｰﾃﾞｨ・Jr.著　評論社　1977	[466-Mo39]
「コンサートは始まる」　ｶｰﾙ・A・ｸﾞﾞｨｰｹﾞﾗﾝﾄﾞ著　音楽之友社　1989	[764-V76]
「西行花伝」　辻邦生著　新潮社　1995	[913.6-Ts41]
「死海のほとり」　遠藤周作著　新潮社　1973	[913.6-E59]
「舌鼓ところどころ」　吉田健一著　中公文庫　1980	[914.6-Y86]
「食通知ったかぶり」　丸谷才一著　文藝春秋　1975	[914.6-Ma59]
「生活ごよみ」　全5巻　入江相政（ほか）編　講談社　1986	[590-Se17]
悲劇の誕生　「ニーチェ全集」Ⅰ　新潮社　1951	[134.9-N71-1]
「百年の旅人たち」上・下　李恢成著　新潮社　1994	[913.6-R32]
「深い河」　遠藤周作著　講談社　1993	[913.6-E59]
「北海道文学全集」　全23巻　立風書房　1979-81	[918.6-H82r]
名人伝　「中島敦全集」　1巻　筑摩書房　1948	[918.6-N34c-1]
「流域へ」　李恢成著　講談社　1992	[913.6-R32]
「ワイルド・スワン」上・下　ﾕﾝ・ﾁｱﾝ著　講談社　1993	[935.9-C33]

おねがい

最近，「本を紛失してしまいました．」とカウンターに申し出る学生さんが多くなってきました．図書館の資料は財産です．現在は絶版・品切れ等，入手が困難な資料もたくさんあります．

各自借りた資料の管理をしっかり行ってください．

館内のコピー機が１台新しくなりました．従来の10円・50円・100円硬貨の他に，500円硬貨・千円札も使えます．

テレビデオが１台はいりました．１度に２人でみることもできます．お友達といっしょにご利用ください．閲覧希望は，貸出カウンターまでどうぞ．

夏休みの図書館

期間　7月31日(月)—9月14日(木)

開館時間　月—金　9:30—16:00

　　土　9:30—12:30

休館日　8月10日(木)—8月16日(水)

　　9月 4日(月)—9月 9日(土)

長期貸出　7月24日(月)より開始します．返却は9月16日(土)以降とします．

貸出冊数　7月31日(月)からはひとり10冊までです．

詳しくは掲示板・配布資料をご覧ください．

藤女子大学
藤女子短期大学　図書館だより　第47号　1995.7

発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
TEL 011-736-5405　FAX 011-709-4770